

1 はじめに



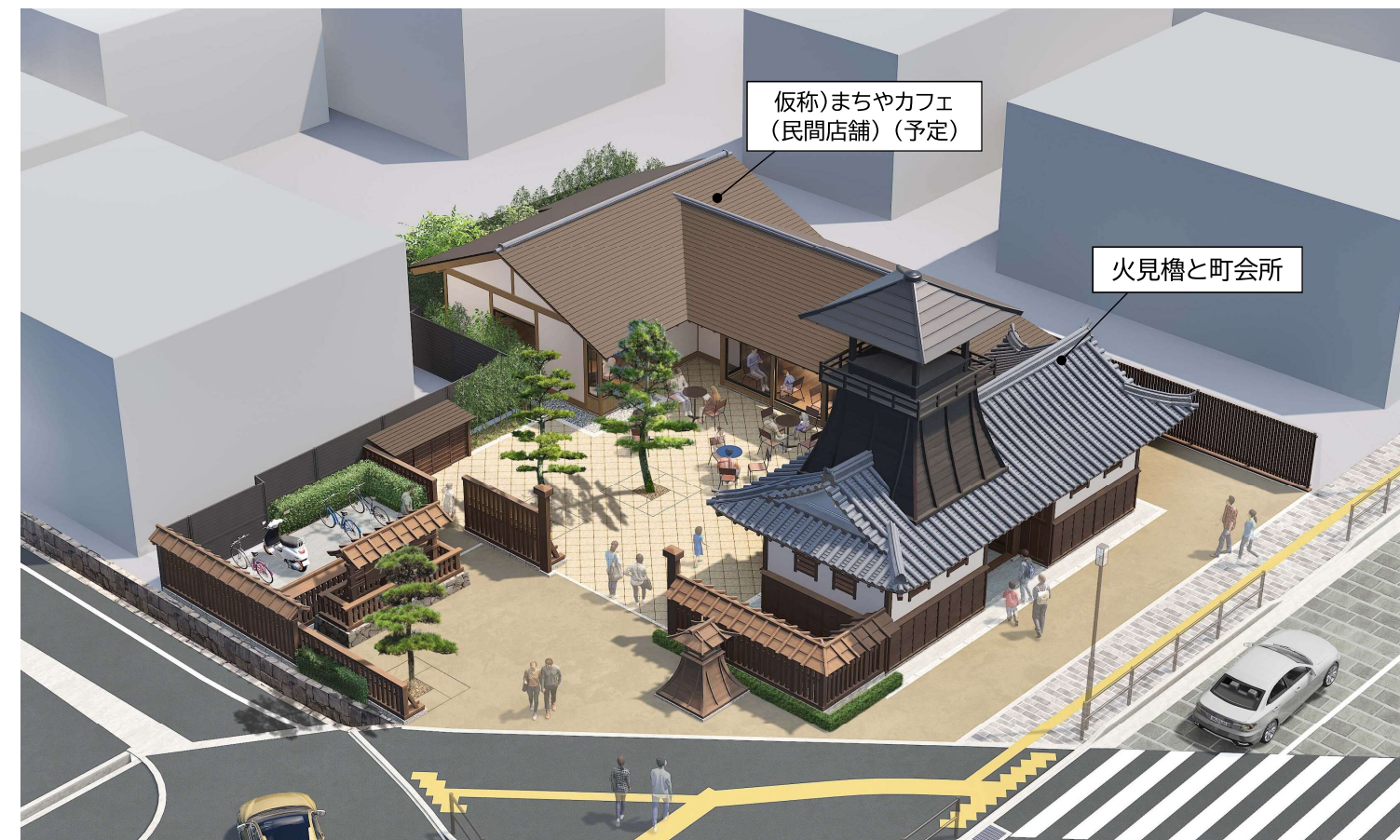
高槻城図（しろあと歴史館蔵） ※石垣や枡形門の形などには想像も含まれます。

かつて大坂城、岸和田城とともに、
府内三大城下町として繁栄していた高槻城下町。
その高槻城の跡地に整備され、長年市民の
皆さまに親しまれてきた「城跡公園」は、
芸術文化劇場の整備と併せて、
歴史的景観づくりのシンボルとなる
『高槻城公園』として、リニューアルします。

公園整備では、城郭にふさわしい櫓や、水堀、石垣、
瓦屋根のついた築地塀(ついじべい)などを再現する
ほか、休憩できるカフェ・レストラン(飲食店)や東屋、
芝生広場や石畳風の園路などを整備していきます。



高槻城模型（しろあと歴史館 常設展示室）



北エリア大手地区 眺望



国道171号より

本パースは、整備イメージのため、実際と異なる場合があります。

【POINT】

- 絵図や写真等に基づき、城下町のランドマークとなる「火見櫓と町会所」を再現
- 「火見櫓と町会所」には、高槻城エリアのガイダンス機能を設置
- 中庭には、憩いの場となる「(仮称) まちやカフェ」を整備し、民間店舗を募集

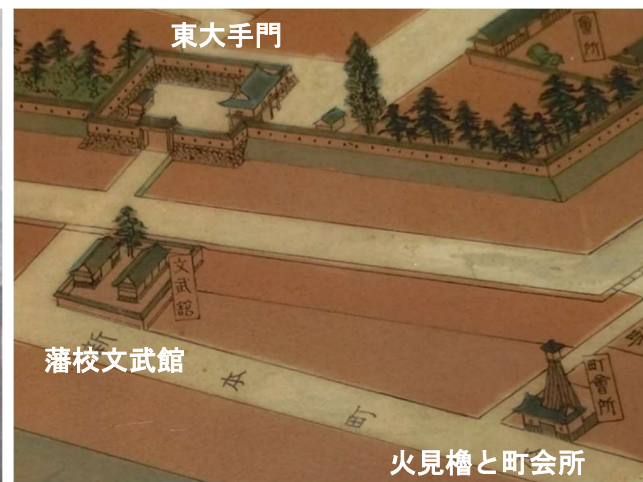
4

公園北エリア（大手地区）

■整備方針



藩校文武館の後方に見える火見櫓（明治7年頃に撮影）

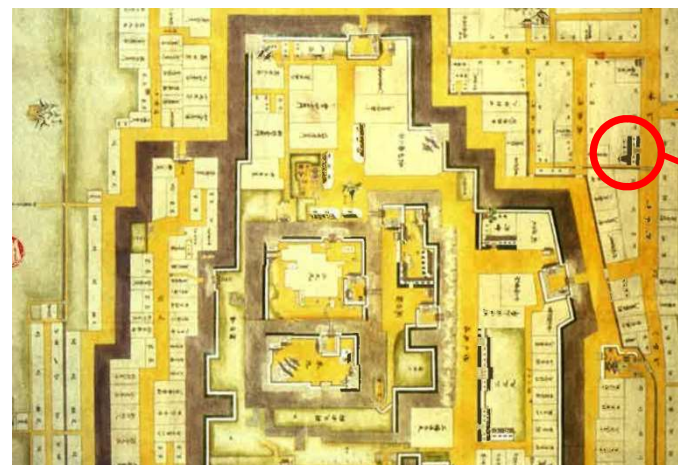


ありし日の高槻城を描いた絵図（昭和6年頃に作成）

○かつて高槻城下町を見守った火見櫓を、現代のランドマークとしてよみがえらせる

○『火見櫓と町会所』の存在は、これまで高槻城絵図等から推定されるのみであったが、高槻小学校百五十周年記念事業で学校史の調査を行った時に、明治7年頃に撮影された藩校文武館（後の高槻小学校）の後方に写る当時の櫓を発見。江戸時代の高槻城下に存在する実像が判明

■高槻城下町にあった火見櫓と町会所



天保11年(1840)頃の城下町を描いた絵図



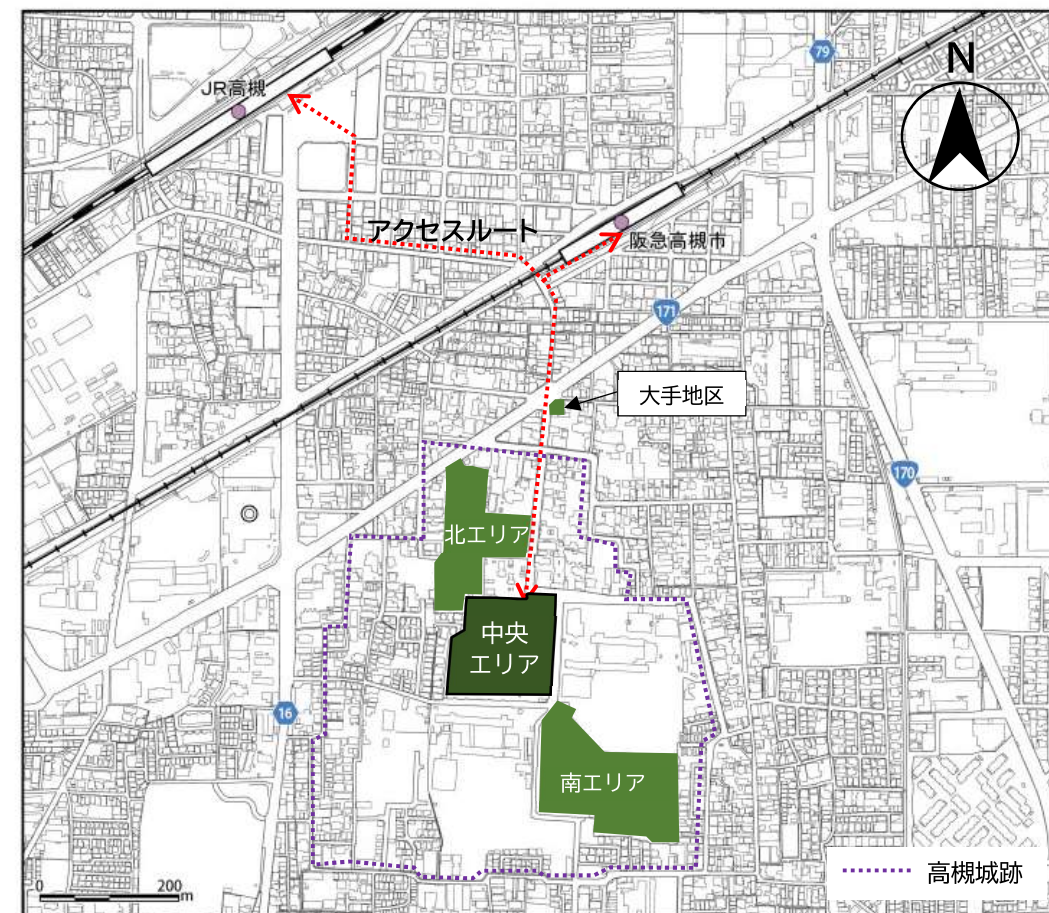
「火見櫓と町会所」（拡大）

○本町・魚屋町など11の町で構成された江戸時代の城下町は「高槻十一町」と呼ばれ、中心には地域の町会所があった。その町会所の屋根に建ち四方を板張りで囲った火見櫓は、城下町を一望するたいそう立派な風格を備えていた

○他に類を見ない独特な造りが特徴で、全国的にも珍しく、少なくとも江戸時代の後期には建設されていたと考えられる。地域の安全を見張り、災害時には半鐘を鳴らして住民に危険を知らせる貴重な存在で、地域風景のランドマークでもあった

2

計画地



公園名称:	高槻城公園（地区公園）
公園面積:	約6.2ha（北1.8ha、中央1.9ha、南2.5ha）
開設年度:	昭和31年度
都市計画 等:	都市計画公園 第2種住居地域、近隣商業地域（北エリア） 広域避難地（高槻市地域防災計画）
アクセス:	高槻城公園芸術文化劇場南館まで JR 高槻駅から徒歩13分 阪急高槻市駅から徒歩8分

公園北エリア（市民会館跡地地区）

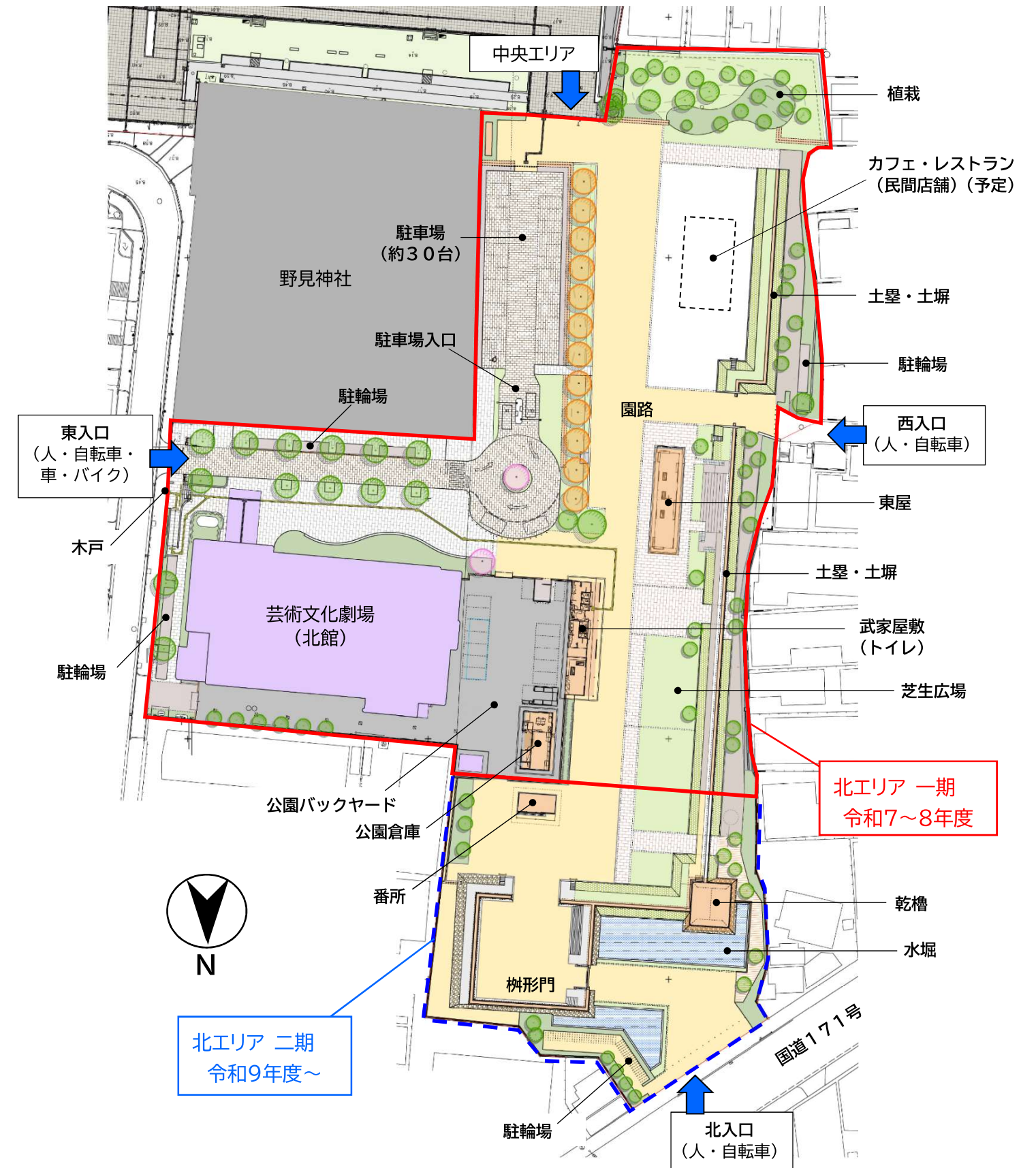


北エリア眺望



国道171号より

本パースは、整備イメージのため、実際と異なる場合があります。



本パースは、整備イメージのため、実際と異なる場合があります。

【POINT】

- ☐ 一期工事（令和7～8年度）では、土塁・土堀や武家屋敷（トイレ）、東屋などを整備
- ☐ 二期工事（令和9年度～）では、乾櫓や枳形門などを整備
- ☐ 園内には、カフェ・レストラン（飲食店）等の民間店舗を募集